

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	中学校施設営繕事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計		事業類型	施設整備系		担当課	教育総務課								
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	施設係								
	総合計画 新基本計画	施策等	3 教育・子育て		12 学校教育		1 安全で快適な教育環境を整備します									
			重点事業		実施計画事業	○										
	予算区分	款	10		項	3		目	1		大	4		中	1	
	根拠法令・個別計画															
	目的	何・誰を対象に	中学校施設及び生徒や職員など使用者													
		どの様な状態にするのか	各中学校の学校運営が滞りなく行えるよう、適切な改修工事などを施工し、安全で快適な環境に整備する。													
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>前年度に学校ヒアリングを実施し、緊急性がある箇所から工事を行った。また、工事施工業者への連絡及び改修工事の工程管理などに関する事務を行った。</p> <p>○平成27年度においては、小牧中学校他普通教室等空調機設置工事、北里中学校他非構造部材耐震改修工事、応時中学校南棟等トイレ改修工事などの改修工事を行った。また、桃陵中・光ヶ丘中校内インターホン設置工事を行った。</p> <p>(直接経費の内訳) 中学校営繕工事費 672,949,080円 設計監理委託料等 34,845,120円</p> <p>国庫補助金 学校施設環境改善交付金 39,742,000円 特定防衛施設周辺整備調整交付金 3,589,000円 繰入金 次世代教育環境整備基金繰入金 170,981,000円 市債 校舎等耐震改修事業債 72,800,000円 校舎大規模改造事業債 127,100,000円</p> <p>○平成28年度においては、桃陵中学校他非構造部材耐震改修工事、光ヶ丘中学校トイレ改修工事、篠岡中学校南棟等トイレ改修工事などの改修工事を行う。</p> <p>(直接経費の内訳) 中学校営繕工事費 241,178,000円(うち34,778,000円は、前年度からの繰越明許費) 設計監理委託料等 9,941,000円(うち 1,404,000円は、前年度からの繰越明許費)</p> <p>国庫補助金 学校施設環境改善交付金 49,981,000円 市債 校舎大規模改造事業債 71,700,000円 校舎等耐震改修事業債 19,400,000円</p>														
受益者負担	無															

コスト	費用			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
		直接経費		千円	74,043	195,383	707,795	251,119
費用	正職員	従事者数	人	0.25	0.25	0.25	0.25	
		人件費	千円	1,375	1,375	1,375	1,375	
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
費用合計		千円	75,418	196,758	709,170	252,494		
対前年比		%		260.8	360.4	35.6		
財源	一般財源		千円	75,418	113,065	294,958	111,413	
	国・県支出金		千円	0	28,793	43,331	49,981	
	その他財源		千円	0	54,900	370,881	91,100	

業 績	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	営繕工事	件	目標	14	14	19	19
			実績	14	19	24	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	営繕工事实施校	校	目標	8	8	8	9
			実績	8	8	9	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	営繕工事については、計画していた工事を実施するとともに、緊急に発生した工事に対応することが出来た			
	事業実施における課題	基本施策の展開方向の目的に対する影響(貢献等)	老朽化が進む校舎などにおいて学校から多数の改修要望があがるが、多額の費用がかかるため、全ての要望に対応することができない。			
		営繕工事を実施することにより、安全で快適な学習環境の整備を進めることができ、生徒が安心して学ぶことのできる環境を整えることができる。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	校舎などの雨漏りを防ぐため、環境整備委託業者や学校で可能な限り、屋根などの樋の清掃などを行う。また、多数の改修の要望があるが、工事の優先順位を決めながら対応していく。			
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	施設の管理者である市が、問題である施設を改修する必要があるので、現状維持と判断した。			
29年度以降の改善案		学校ヒアリング等を基に緊急性のあるものから優先順位をつけ、随時施工していく。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 ファシリティマネジメントの視点から、計画的に営繕工事を実施し、建物の長寿命化を図ること。